



今日様

占い

川崎ゆきお

「昨日あったことが今日生きるためのヒントなのです」

「ほう、何ですか、それは」

「私は毎朝、起きたとき、すぐにではないですが、しばらくして昨日のことを思い出します」

「すぐじゃないのですか」

「はい、寝起きいきなり、そんなことを考えません。まあ、まだ頭がしっかり起きていないので、それで、しばらくしてからです」

「どの程度」

「ああ、朝食を済ませ、お茶を飲みに出たときです」

「朝の喫茶店ですか」

「そうです。そこでコーヒーを飲みながら、昨日のことを思い出します」

「いろいろあるでしょ。昨日は近いので、思い出すことが」

「一つでいいのです。一つで」

「それはどうして選ぶのですか？」

「真っ先に思い出したものです」

「それが、今日を生きるヒントなのですか？ 漠然としたヒントですねえ」

「ヒントは漠然としている方がよろしい。ちなみにあなた、昨日のことで、何か思い出せますか」

「はい、簡単ですよ。風で自転車のペダルが重かった。向かい風が強かったのです」

「ほら、ものすごく使いやすいヒントじゃないですか」

「そうなんですか。これが今日を生きるヒントになるのですか」

「その状態をあなたがどう受け止められたかです」

「受け取るも何も、風が強い日だったのです。そういう日もあるなあ、程度です。それ以上、何かありますか」

「いろいろあるでしょ。その状態から何か思いつきませんか？」

「単純な思いつきですが、逆風だなあと」

「いいです。それで、決まりです。今日生きるヒントは逆風」

「いや、他にもいろいろ思いつきますよ。前カゴにカバーをしてましてねえ。これが帆のように風を受ける。だから、折り畳めるカバーにしたい。頑張ってボックス型を買ったのですが、逆風するとき、もろに受けるのですよ。また、私の自転車、変速機がない。三段変則でもいいから、軽いのが使えれば、もう少し楽だったとかね」

「だめです。最初思い出したものが優先です」

「そうなんですか」

「そうじゃないと、きりがありませんよ。昨日の出来事の中で、一つだけ取り出すのもそのためです。真っ先に思い出したもの、真っ先に思いついたもの、これがいいのです」

「では、今日のヒントは逆風だとして、それをどう使うのです」

「今日は逆風なので、そう心得て一日生きるのです」

「え、今日は風は強くないですよ」

「その風ではなく、世間からの風当たりです」

「ああ、はいはい。心得置きます」

「ただし」

「はい」

「有効期限は一日です」

「じゃ、毎日生きるヒントが変わるわけですか」

「まあ、日めくり暦に書かれている名言のようなものと、解釈してもかまいません。そのオリジナル版です」

「それは何という行事ですか」

「行事と言うほどではなく、運勢、占いのようなものです」

「何という」

「一日単位なので今日様占いです」

「あ、はい」

了